

ジェノトロピンゴークイック注用5. 3mg ジェノトロピンゴークイック注用12mg

【この薬は？】

販売名	ジェノトロピン ゴークイック注用5. 3mg Genotropin GoQuick Inj. 5.3mg	ジェノトロピン ゴークイック注用12mg Genotropin GoQuick Inj. 12mg
一般名	ソマトロピン（遺伝子組換え） Somatropin (genetical recombination)	
含有量 (1製剤中)	5. 33mg	12. 0mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、ヒト成長ホルモン製剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- ・この薬は、体の成長と発達を調節する成長ホルモンの不足による低身長などの症状を改善します。
- ・次の病気の人に処方されます。
 - 骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症
 - 骨端線閉鎖を伴わない次の疾患における低身長
 - ・ターナー症候群
 - ・慢性腎不全
 - 骨端線閉鎖を伴わないSGA (small-for-gestational age) 性低身長症
 - プラダー・ウィリ症候群における体組成異常及び骨端線閉鎖を伴わない低身長

○成人成長ホルモン分泌不全症（重症に限る）

- ・この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者さんまたは家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

- ・悪性腫瘍のある人
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人

〔プラダー・ウィリ症候群における体組成異常及び骨端線閉鎖を伴わない低身長治療の場合〕

- ・高度な肥満または呼吸器に重篤な障害のある小児

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・糖尿病の人、耐糖能に異常のある人または糖尿病の危険因子を持つ人（肥満、血縁に糖尿病の人がいる人など）
- ・心臓に障害がある人
- ・脳腫瘍（頭蓋咽頭腫（ずがいいんとうしゅ）、下垂体腺腫（かすいたいせんしゅ）、松果体腫（しょうかたいしゅ）など）による成長ホルモン分泌不全性低身長症および成人成長ホルモン分泌不全症（重症に限る）の人
- ・過去に脳腫瘍になったことがある人
- ・慢性腎不全の人
- ・腎臓に障害がある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

○この薬の使用前に病気の詳しい診断やこの薬を使用するかどうかを判断するための検査が行われます。

○SGA性低身長症の治療では、この薬を使用する前に血液検査などが行われます。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、使用する量および回数は、次のとおりです。

目的	使用量・使用回数
骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症	1週間に体重1kgあたり0.175mgを2～4回に分けて筋肉内に注射するか、6～7回に分けて皮下に注射します。
骨端線閉鎖を伴わない次の疾患における低身長 ・ターナー症候群	1週間に体重1kgあたり0.35mgを2～4回に分けて筋肉内に注射するか、6～7回に分けて皮下に注射します。
骨端線閉鎖を伴わない次の	1週間に体重1kgあたり0.175mg

目的	使用量・使用回数
疾患における低身長 ・慢性腎不全	を6～7回に分けて皮下に注射します。 投与開始6ヵ月後以降0.35mgまで増量されることがあります。
骨端線閉鎖を伴わないSGA性低身長症	1週間に体重1kgあたり0.23mgを6～7回に分けて皮下に注射します。 効果不十分な場合は1週間に体重1kgあたり0.47mgまで増量されます。
プラダー・ウィリ症候群における体組成異常及び骨端線閉鎖を伴わない低身長	小児には、1週間に体重1kgあたり0.245mgを6～7回に分けて皮下に注射します。 成人には、初期量として、1週間に体重1kgあたり0.042mgを6～7回に分けて皮下に注射します。症状に応じて1週間に体重1kg当たり0.084mgまで増量されます。なお、症状や検査結果に応じて増減されることがあります。ただし、1日量として1.6mgは超えません。
成人成長ホルモン分泌不全症（重症に限る）	初期量として、1週間に体重1kgあたり0.021mgを6～7回に分けて皮下に注射します。症状に応じて1週間に体重1kg当たり0.084mgまで少しずつ増量されます。なお、症状や検査結果に応じて増減されることがあります。ただし、1日量として1mgは超えません。

●どのように使用するか？

- ・使用する際には、必ず添付の取扱説明書を読んでください。
- ・本体内部にある薬の粉末を溶かしてから、専用の注射針を用いて注射します。最後のページの使用方法の図を参照してください。
- ・使用後の針は、そのまま容器などに入れて子供の手の届かないところに保管してください。
- ・一本のこの薬を複数の人で使用しないでください。

●使用し忘れた場合の対応

決して2回分を一度に注射しないでください。
気がついた時に、1回分を注射してください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

はじめに血糖低下（お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、意識の低下）が、次いで血糖上昇（体がだるい、体重が減る、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える）があらわれる可能性があります。また長期の過量使用により先端巨大症の症状（額、鼻やあご、手足など体の先端が大きくなるなど）があらわれる可能性があります。これらの症状があらわれた場合は、すぐに医師に連絡してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

- ・この薬の使用により、インスリン感受性が低下することがあるので、定期的に血糖値、HbA1cなどの検査が行われます。また糖尿病の人は、糖尿病網膜症などの糖尿病に伴う病気の状態が定期的に確認されます。視力の低下、視野が狭くなる、視野の中に見えない部分がある、物がゆがんで見えるなどの症状があらわれた場合は、医師に相談してください。
- ・定期的に甲状腺機能の検査が行われることがあります。甲状腺機能低下症（疲れやすい、まぶたが腫れぼったい、寒がり、体重が増える、いつも眠たい、便秘、かすれ声、脱毛）があらわれた場合あるいは悪化した場合には適切な治療が行われます。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人はこの薬を使用することはできません。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

〔骨端線閉鎖を伴わないSGA性低身長症における低身長治療の場合〕

- ・定期的な検査が行われます。血液検査は使用開始後3～6ヵ月ごとに1回行われます。また、X線検査（骨年齢の測定）は6ヵ月～1年ごとに1回行われます。

〔プラダー・ウィリ症候群における体組成異常及び骨端線閉鎖を伴わない低身長治療の場合〕

- ・高度な肥満、過去に呼吸器の障害または睡眠時無呼吸になったことがある人、呼吸器感染の要因をもつプラダー・ウィリ症候群の小児において、この薬の使用に伴う死亡例が報告されています。また、これら要因をもつ男性ではさらに危険性が高まる可能性があるため次の点に注意してください。
 - ・この薬の使用中に上気道閉塞（へいそく）の症状（いびきがあらわれる、またはいびきの回数が増えるなど）があらわれたら医師に相談してください。
 - ・医師の指示どおりに体重管理を行ってください。
- ・小児では、脊柱（せきちゅう）変形（側弯）が過度に進行するおそれがあるので、理学的検査およびX線検査などが定期的に行われます。
- ・成人では、定期的な血液検査が行われます。検査は使用開始後4週間後および12週間後に1回、それ以降は12週から26週に1回の測定が目安です。

〔成人成長ホルモン分泌不全症（重症に限る）の治療の場合〕

- ・成人成長ホルモン分泌不全症の人は過去に脳腫瘍になったことがある人が多く、この薬の使用で脳腫瘍が再発したとの報告があります。過去に脳腫瘍になったことがある人は定期的に画像診断が行われます。
- ・定期的な血液検査が行われます。検査は使用開始後24日目までは4週間に1回、それ以降は12週から24週に1回の測定が目安です。
- ・この薬の使用により浮腫（体重が増える、体のむくみ、目が腫れぼったい）、関節痛（関節の痛み、痛みで関節が動かしにくい）などがあらわれたら医師に相談してください。

副作用は？



特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
痙攣 けいれん	顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
甲状腺機能亢進症 こうじょうせんきのうこうしんしょう	動悸（どうき）、脈が速くなる、手指のふるえ、体重が減る、汗をかきやすい、イライラする、微熱
ネフローゼ症候群 ネフローゼしょうこうぐん	尿量が減る、排尿時の尿の泡立ちが強い、息苦しい、尿が赤みを帯びる、むくみ、体がだるい、体重が増える
糖尿病 とうにょうびょう	体がだるい、体重が減る、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	顔や手足の筋肉がぴくつく、体重が減る、汗をかきやすい、微熱、むくみ、体がだるい、体重が増える
頭部	一時的にボーっとする、意識の低下、イライラする
口や喉	喉が渇く、水を多く飲む
胸部	動悸、息苦しい
手・足	手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、脈が速くなる、手指のふるえ
尿	尿量が減る、排尿時の尿の泡立ちが強い、尿が赤みを帯びる、尿量が増える

【この薬の形は？】

性状	白色の塊状をした粉末（カートリッジ前部）および無色澄明の液（カートリッジ後部）からなる。 カートリッジ前後部を混和し溶かした注射液は、無色澄明またはわずかに混濁する。
容器の形状	ジェノトロピンゴークイック注用5. 3 m g  ジェノトロピンゴークイック注用1 2 m g 

【この薬に含まれているのは？】

カートリッジ前部（粉末）	有効成分	ソマトロピン（遺伝子組換え）
	添加剤	D-マンニトール グリシン リン酸水素ナトリウム水和物 リン酸二水素ナトリウム
カートリッジ後部（溶解液）	添加剤	<i>m</i> -クレゾール D-マンニトール

【その他】

●この薬の保管方法は？

〔溶解前〕

- ・凍結を避けて冷蔵庫など（2～8℃）で保管してください。光を避けてください。

〔溶解後〕

- ・凍結を避けて冷蔵庫など（2～8℃）で保管してください。光を避けてください。
- ・4週間以内に使用してください。溶かした後に凍結した場合は、使用しないでください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。子供が自分で注射する場合は、その子以外の方が使用することのないよう家族の方が注意してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

●廃棄方法は？

- ・使用済みの針および本品については、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ファイザー株式会社

(<https://www.pfizer.co.jp/pfizer/>)

メディカル・インフォメーション（患者さん・一般の方）

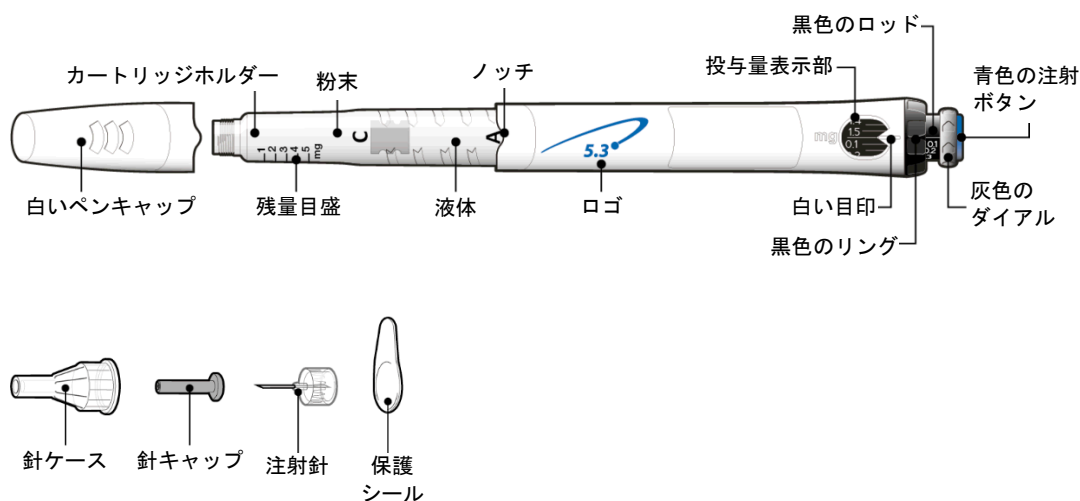
電話：0120-965-485

受付時間：月～金 9時～17時30分

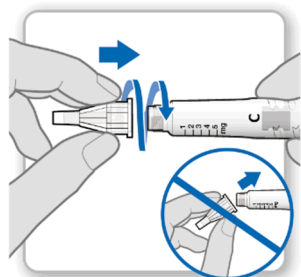
（土日祝日および弊社休業日を除く）

ジェノトロピンゴークイック注用5. 3 m g

各部の名称

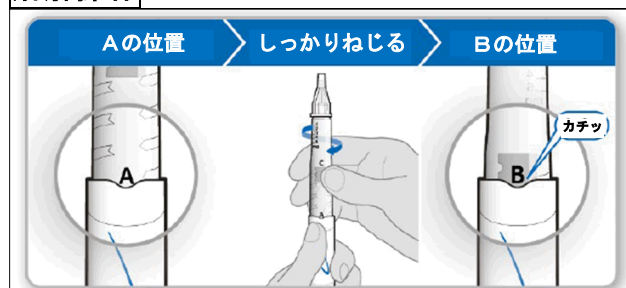


新しい注射針の取り付け



- 1) 白いペンキャップをペン本体からまっすぐ引いてはずします。
- 2) 新しい注射針の入った針ケースを用意し、保護シールをはがします。
- 3) カートリッジホルダーの先端部をアルコール綿でふきます。
- 4) 注射針をペン本体にまっすぐ刺し、ゆっくり回し入れます。その際、回し過ぎてきつく締めてしまわないようご注意ください。
注) 注射針を斜めにつけないように注意してください。ペンの液漏れの原因となります。
- 5) 注射針の針ケースと針キャップはつけたままにしておきます。

溶解操作

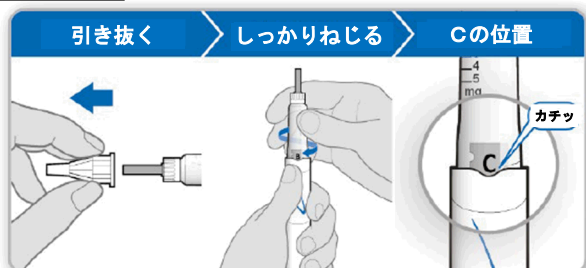


- 1) 注射針の針先側を上にして、「A」の文字が手前になるようにペン本体を持ちます。
- 2) カートリッジホルダーをペン本体にしっかりと回し入れ、「B」の文字をノッチの位置に合わせカチッとはめ合わせます。
- 3) ペン本体をゆっくり左右に傾けて粉末を完全に溶かします。このとき決して激しく振らないでください。激しく振ると薬の有効成分に影響を与えることがあります。
- 4) カートリッジ内の液が透明になり、粉末が完全に溶けたことを確認してください。

もし、液が濁っていたり、粉末が残っている場合は、更に数回、ペン本体を左右にゆっくりと傾けてください。

それでもまだ液が濁っていたり、粉末が残っている場合には使用せず、新しいペンでもう一度試してください。

空気抜き



- 1) 注射針の針ケースをはずします。針ケースは後で使用しますのでなくさないようご注意ください。
- 2) 注射針の針キャップはつけたままにしておきます。
注) 注射の針ケースをはずすと、針キャップが確認できるはずですが、針キャップが見えない場合は、もう一度注射針を取り付けてください。
- 3) 注射針の針先側を上にしてペン本体を持ちます。
- 4) カートリッジホルダーを軽くはじき、空気を上に集めます。
- 5) 「C」がノッチの位置にきてカチッというまで、カートリッジホルダーをペン本体にしっかりと回し入れます。
このとき、針キャップのあたりに液が出てくる場合があります。これは正常な状態です。

ペン本体の準備



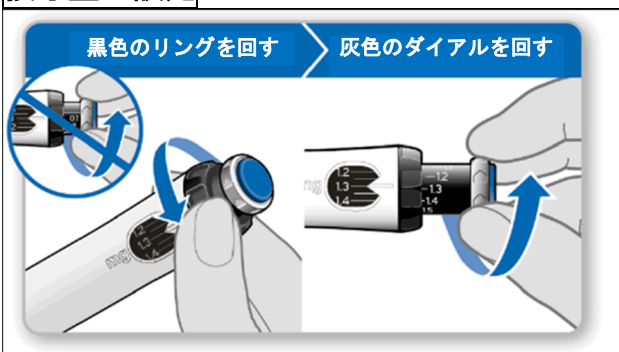
ペンから少量の液を押し出すことで、残っている空気を取り除きます。投与量は0.1 mgで主治医が決めた投与量とは異なります。初めて使用する時のみ行います。

- 1) 注射針の針キャップをはずし、廃棄します。
注) 針刺し事故を避けるため、注射針には触れないでください。
- 2) 投与量表示部に0.1 mgが表示されていることを確認してください。
- 3) カチカチという音が止まるまで、灰色のダイヤルを矢印の方向に回します。
- 4) 注射針側を上に向けて、ペン本体をしっかりと持ちます。
- 5) 青色の注射ボタンを押します。
- 6) 針先に液が出ているか確認します。液が出ていれば準備完了です。

もし、針先から液が出ない場合は、「ペン本体の準備」の1)～5)の操作を2回まで繰り返して行ってください。

それでもまだ液が出ない場合は、お手元の製品の使用を中止し、主治医または看護師にご相談ください。

投与量の設定

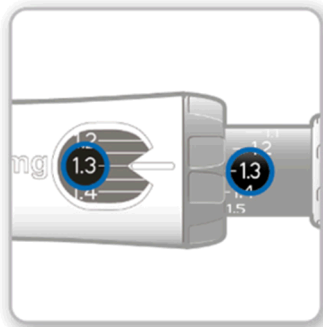


初めてペンを使用するときは、主治医が決めた投与量を設定します。

新しいペンを使い始めるか、主治医または看護師から指示があるまで、再度投与量を設定する必要はありません。

- 1) 黒色のリングを反時計回りに回し、投与量を投与量表示部に表示させ、白い目印に合わせます。灰色のダイヤルを回さないように注意してください。
回しすぎて投与量を少なく設定して白い目印をこえてしまった場合は、黒色のリングをそのまま同じ方向に回転させて正しい投与量に設定してください。
注) 黒色のリングが回らない場合は、青色の注射ボタンをカチッと音がしなくなるまで押してください。それからもう一度投与量を設定してください。このとき、針から液が出てくる場合があります。
- 2) 灰色のダイヤルを矢印の方向に、カチッと音がしなくなるまで回します。

投与量の確認



黒色のロッドの数値は白い目印と一直線にあります。

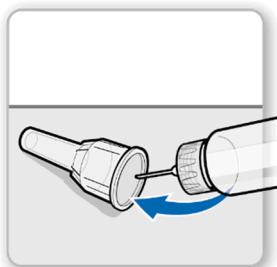
- 1) 黒色のロッドの数値が投与量表示部の数値と一致していることを確認してください。
二つの数値が一致していれば、ペンで注射する準備ができています。
二つの数値が合わない場合は必ず、カチカチという音が止まるまで、灰色のダイヤルを矢印の方向に回してください。

注射の仕方



- 1) 注射する場所をアルコール綿でふき清潔にします。主治医の指示通りに、注射部位の準備をしてください。
- 2) 注射部位にペン本体をあてます。
- 3) 皮膚に注射針を上からまっすぐ刺してください。
- 4) 青色の注射ボタンをカチッと音がしなくなるまで押してください。
- 5) 全量が確実に入れられるように、少なくとも5秒待ちます。その間、青色の注射ボタンを軽く親指で押したままにしてください。
- 6) 5秒後に注射針を皮膚からまっすぐ離します。
- 7) 注射したところにアルコール綿を当てて、しばらく押さえます。
注) 注射部位や注射針の先端に液のしずくが見られる場合は、次の注射の際、注射針を皮膚から抜く前に青色の注射ボタンを長く押ししてみてください。

注射針の除去

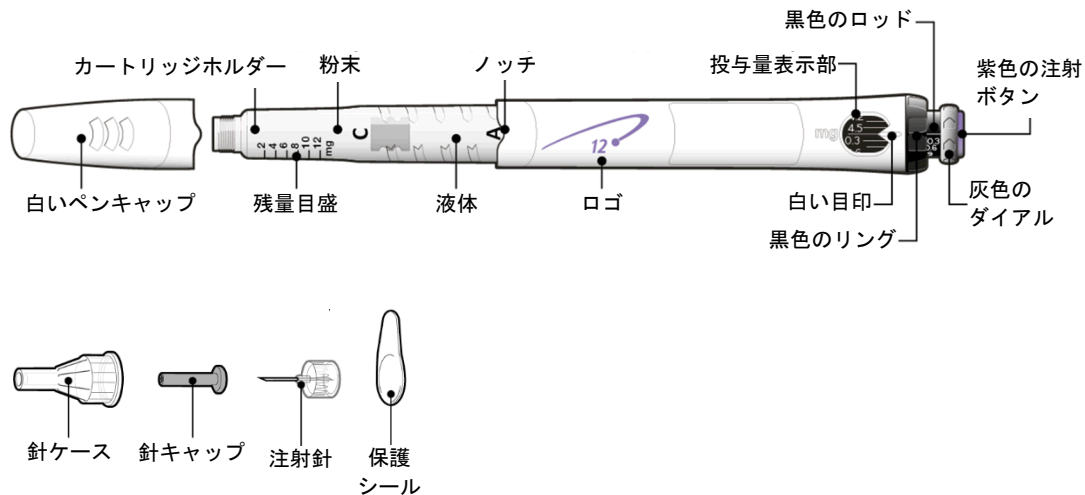


- 1) 注射針に針ケースを取り付けてください。
注) 針刺し事故を避けるため、注射針に直接触らないでください。
- 2) 針ケースごと注射針を回して引き抜きます。
- 3) 使用済みの注射針は使用済みの注射針を入れるための容器に廃棄してください。

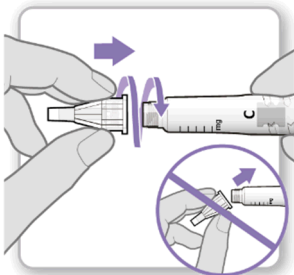
- 4) 白いペンキャップを取り付けてください。
- 5) 次回の注射まで本剤を冷蔵庫に入れて保管します。

ジェノトロピンゴークイック注用12mg

各部の名称



新しい注射針の取り付け



- 1) 白いペンキャップをペン本体からまっすぐ引いてはずします。
- 2) 新しい注射針の入った針ケースを用意し、保護シールをはがします。
- 3) カートリッジホルダーの先端部をアルコール綿でふきます。
- 4) 注射針をペン本体にまっすぐ刺し、ゆっくり回し入れます。その際、回し過ぎてきつく締めてしまわないようご注意ください。
注) 注射針を斜めにつけないように注意してください。ペンの液漏れの原因となります。
- 5) 注射針の針ケースと針キャップはつけたままにしておきます。

溶解操作

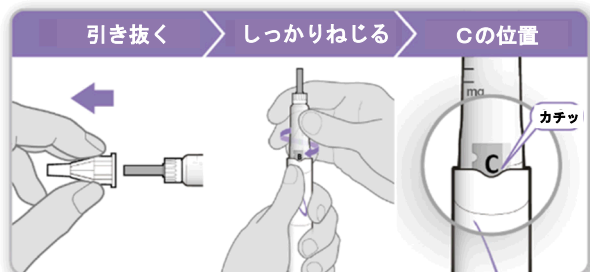


- 1) 注射針の針先側を上にして、「A」の文字が手前になるようにペン本体を持ちます。
- 2) カートリッジホルダーをペン本体にしっかりと回し入れ、「B」の文字をノッチの位置に合わせカチッとはめ合わせます。
- 3) ペン本体をゆっくり左右に傾けて粉末を完全に溶かします。このとき決して激しく振らないでください。激しく振ると薬の有効成分に影響を与えることがあります。
- 4) カートリッジ内の液が透明になり、粉末が完全に溶けたことを確認してください。

もし、液が濁っていたり、粉末が残っている場合は、更に数回、ペン本体を左右にゆっくりと傾けてください。

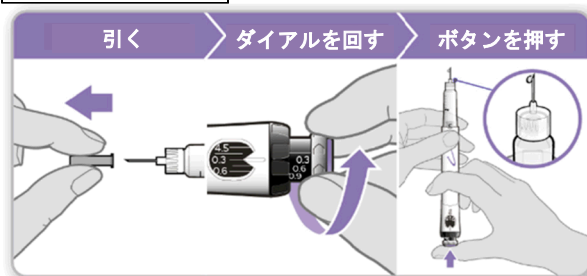
それでもまだ液が濁っていたり、粉末が残っている場合には使用せず、新しいペンでもう一度試してください。

空気抜き



- 1) 注射針の針ケースをはずします。針ケースは後で使用しますのでなくさないようご注意ください。
- 2) 注射針の針キャップはつけたままにしておきます。
注) 注射の針ケースをはずすと、針キャップが確認できるはずですが、針キャップが見えない場合は、もう一度注射針を取り付けてください。
- 3) 注射針の針先側を上にしてペン本体を持ちます。
- 4) カートリッジホルダーを軽くはじき、空気を上に集めます。
- 5) 「C」がノッチの位置にきてカチッというまで、カートリッジホルダーをペン本体にしっかりと回し入れます。
このとき、針キャップのあたりに液が出てくる場合があります。これは正常な状態です。

ペン本体の準備



ペンから少量の液を押し出すことで、残っている空気を取り除きます。投与量は0.3 mgで主治医が決めた投与量とは異なります。初めて使用する時のみ行います。

- 1) 注射針の針キャップをはずし、廃棄します。
注) 針刺し事故を避けるため、注射針には触れないでください。
- 2) 投与量表示部に0.3 mgが表示されていることを確認してください。
- 3) カチカチという音が止まるまで、灰色のダイヤルを矢印の方向に回します。
- 4) 注射針側を上に向けて、ペン本体をしっかりと持ちます。
- 5) 紫色の注射ボタンを押します。
- 6) 針先に液が出ているか確認します。液が出ていれば準備完了です。

もし、針先から液が出ない場合は、「ペン本体の準備」の1)～5)の操作を2回まで繰り返して行ってください。

それでもまだ液が出ない場合は、お手元の製品の使用を中止し、主治医または看護師にご相談ください。

投与量の設定

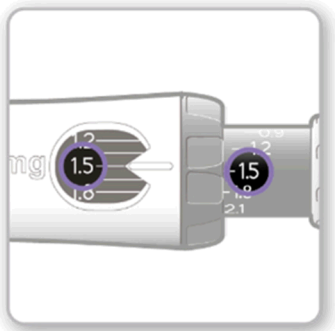


初めてペンを使用するときは、主治医が決めた投与量を設定します。

新しいペンを使い始めるか、主治医または看護師から指示があるまで、再度投与量を設定する必要はありません。

- 1) 黒色のリングを反時計回りに回し、投与量を投与量表示部に表示させ、白い目印に合わせます。灰色のダイヤルを回さないように注意してください。
回しすぎて投与量を少なく設定して白い目印をこえてしまった場合は、黒色のリングをそのまま同じ方向に回転させて正しい投与量に設定してください。
注) 黒色のリングが回らない場合は、紫色の注射ボタンをカチッと音がしなくなるまで押してください。それからもう一度投与量を設定してください。このとき、針から液が出てくる場合があります。
- 2) 灰色のダイヤルを矢印の方向に、カチッと音がしなくなるまで回します。

投与量の確認



黒色のロッドの数値は白い目印と一直線にあります。

- 1) 黒色のロッドの数値が投与量表示部の数値と一致していることを確認してください。
二つの数値が一致していれば、ペンで注射する準備ができています。
二つの数値が合わない場合は必ず、カチカチという音が止まるまで、灰色のダイヤルを矢印の方向に回してください。

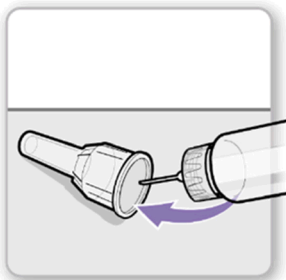
注射の仕方



- 1) 注射する場所をアルコール綿でふき清潔にします。主治医の指示通りに、注射部位の準備をしてください。
- 2) 注射部位にペン本体をあてます。
- 3) 皮膚に注射針を上からまっすぐ刺してください。
- 4) 紫色の注射ボタンをカチッと音がなくなるまで押してください。
- 5) 全量が確実に入れられるように、少なくとも5秒待ちます。その間、紫色の注射ボタンを軽く親指で押したままにしてください。
- 6) 5秒後に注射針を皮膚からまっすぐ離します。
- 7) 注射したところにアルコール綿を当てて、しばらく押さえます。

注) 注射部位や注射針の先端に液のしずくが見られる場合は、次の注射の際、注射針を皮膚から抜く前に紫色の注射ボタンを長く押してみてください。

注射針の除去



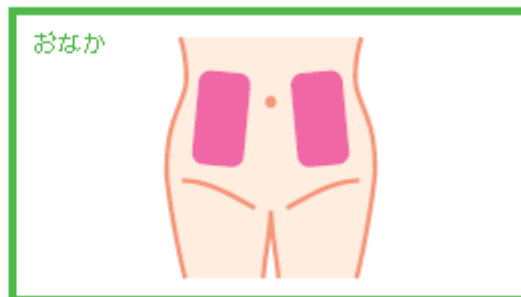
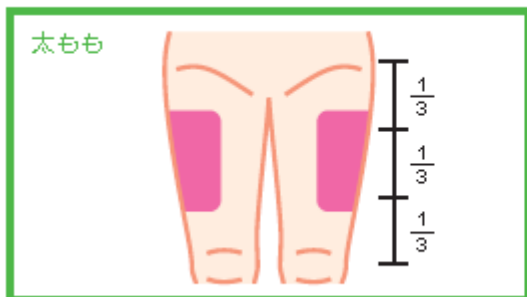
- 1) 注射針に針ケースを取り付けてください。
注) 針刺し事故を避けるため、注射針に直接触らないでください。
- 2) 針ケースごと注射針を回して引き抜きます。
- 3) 使用済みの注射針は使用済みの注射針を入れるための容器に廃棄してください。

- 4) 白いペンキャップを取り付けてください。
- 5) 次回の注射まで本剤を冷蔵庫に入れて保管します。

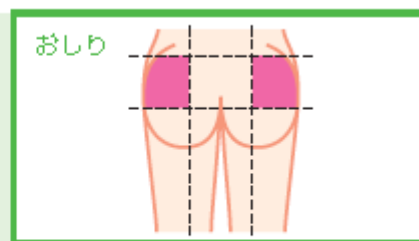
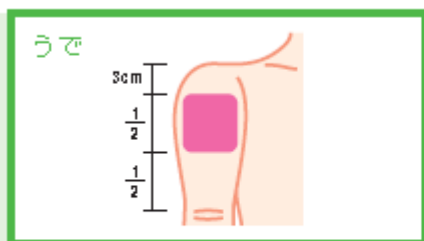
(ジェノトロピンゴークイック注用5. 3mgとジェノトロピンゴークイック注用12mg共通)

〔使用部位〕

自分で皮下注射をする場所としてふさわしいのは、太ももの前面、おなかです。



うで、おしりにも注射することができます。



- 注射する場所は、清潔にし、主治医または看護師の指示にしたがってください。注射する時は、毎回場所を変えるようにしましょう。前回の部位から少なくとも2cm離れた場所に注射してください。
- 骨ばっている、あざがある、赤くなっている、痛みがある、または硬くなっている場所、傷や皮膚疾患がある場所は避けてください。

 : 注射する場所